

外国人エンジニア国内へ

住宅設備資材の販売、タイル工事、リフォーム事業などを手がけるタケセン（宮崎市、日高彰一社長）が、外国人エンジニアを国内企業に派遣する新規事業をスタートさせた。ネパール人が中心となり人材エージェントと連携。「県内はもちろん、全国に広げていきたい」と意気込んでいる。

タケセン（宮崎市）

発案者は、東京からUター 総務部長（62）＝延岡市出身。 ンし5年前に入社した佃信一 前職時代、人材ビジネスに携



タケセンが提携しているネパールの人材エージェント「Fujisan Global Affairs」の授業風景（タケセン提供）

3年で100人目標 派遣事業スタート

わった経験を生かし同社初の異業種参入を提案。かつての同僚であるネパール人のカドカ・ウメシユ人材派遣事業部担当部長（45）も賛同して入社、昨年2月から事業をスタートさせた。

カドカ部長によると、山に囲まれ政局が不安定なネパールは出稼ぎ大国。英語が堪能なエンジニアは中東希望者が多かったが、契約期間が短いこともあり最近是不人気に。正社員制度があり長期間働ける日本の人気が高まっているという。

事業開始に当たり、ネパールの人材エージェント「Fujisan Global Affairs」（フジサン・グローバルアフェアーズ）と提携。IT、人工知能（AI）系からケミカル、機械、電機・電子化学など各種エンジニアが日本語を学んでいる。

タケセンはフジサンに登録する人材の情報を日本企業に提供するほか、先に企業ニーズを探り求められる能力に応

じてマッチング。新卒だけでなくキャリア人材の派遣も手がけている。

一番の特長は、3年間の勤務を経た後は自社への転籍が無償という点。通常は年収の30%前後とされる転籍費用がかからないことで「企業にも技術者にとってもウィンウィンのシステム」（佃部長だ）。

カドカ部長は、新規事業に合わせて設立した横浜支店に常駐。営業は佃部長と2人でスタートしたため、この1年は企業訪問や情報収集に力を尽くした。

マッチング成立はまだ少ないが、土木・建築、電機関連のエンジニア数人（キャリア）が今春東京と横浜の企業に派遣される。新卒、キャリア計3人もビザが降り次第、関東で働く予定だ。入国後は空港への出迎えから住居確保、口座開設などの各種手続きといった生活全般をサポートしている。

「エンジニアの他県流出に悩む県内でも貢献できるので」と佃部長。今後は全国に拠点をつくり、インドやフィリピンなど周辺国の技術者も紹介可能に。3年で100人の派遣を目指していく。

（樋口由香）

ネパールの人材会社と提携